令和６年６月１０日

安全･安心をお届けいたします

きらきらＥｙｅランド
ＪＡ庄内みどり

グリーンプロジェクト情報 第６号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

きめ細かな水管理と田ワキ対策の徹底を！
生育緩慢！早期の有効茎確保に努めよう！

今年は移植後、「平均気温は平年並み」、「日照時間はやや多く」、「降水量は平年並み」で経過し活着は概ね良好となりました。しかしその後は、5/16～17 の強風と、断続的な降雨・低温のため、根の伸長が不良となり、葉色は上がらず、分げつの発生も少なく、生育は停滞しています。引き続き状況に応じた水管理に努め、分げつの発生を促しましょう。併せて水交換や田干しを実施し、ワキ対策に努めましょう。

仙台管区気象台の１か月予報（５月３０日発表）によると、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並～やや高く、日照時間・降水量は平年並に経過すると予想されています。有効茎決定期は６月２０日頃です。目標茎数の８～９割を確保し、遅れずに中干しへ移行しましょう。

◎現在の生育状況（５月３１日現在の生育診断圃データ）　（　）内は平年対比

品　種	草　丈	茎　数	葉　数	葉　色
はえぬき	22.0cm（ 85）	112本/㎡（77）	4.7葉（-0.6）	24.9（ -9.5 ）
つや姫	28.4cm（102）	133本/㎡（93）	4.8葉（-0.1）	27.9（ -2.8 ）
雪若丸	21.0cm（102）	131本/㎡（89）	5.5葉（+0.1）	24.5（ -5.9 ）

【移植日】「はえぬき 5/13」「つや姫 5/11」「雪若丸 5/8」

◎土壌アンモニア態窒素残存量調査結果

（５月３１日現在の水田農業研究所データ）

現時点での土壌アンモニア態窒素の残存量は、“平年並み”と推察されます。

単位：mg／100g 乾土

品　種	令和６年	平年値	平年差
はえぬき	５．６	５．５	＋０．１

技、其の一　状況に応じた水管理で有効茎数の早期確保を！

①分げつの発生を促すために日中は３cm 程度の浅水管理を励行しましょう。水の補給は夕方または早朝に行ない、昼夜の日較差をつけ、分げつの発生を促しましょう。
②低温時や強風が続く場合は、一時的に深水にして稲体を保護しましょう。
③強風などによる稲体の消耗が原因で葉色低下が見られる場合、まず田ワキ対策を実施したうえで圃場全体を確認し、窒素成分で１kg/10a 以内の追肥を行いましょう。（はえぬき、雪若丸）

技、其の二　田ワキ･表層剥離が見られる圃場では早めの対策を！！

昨年のひこばえが土壌に多くすき込まれたため、例年よりも土壌の還元が進み、田ワキと表層剥離の発生が見受けられます。土壌が還元状態になると、有害ガス（硫化水素）の発生により根が傷み、葉色が低下し初期生育に大きく影響を及ぼします。下記を参考に、特に例年田ワキが見られる圃場では早期に対処しましょう。

☆主な対策

・田ワキの強い圃場では、温暖な日に2～3日程度の田干しや水交換を行い、酸素を十分に補給し、根の回復を図りましょう(但し、高温時や低温時、強風時の田干しは避けましょう)。また、田干し後の入水時に「ＶＳこがね液（5ℓ/10a)」や「ファイトアップ（250g/10a)」の使用も効果的です。
・表層剥離、アオミドロが多い圃場では積極的に水交換を行い、発生を抑制しましょう。

技、其の三　とりにぼした水田雑草の除草対策！

○ノビエ対策
・トドメ MF１キ粒剤：ノビエ５葉期まで 1.0 kg/10a
・クリンチャー１キ粒剤：ノビエ４葉期まで 1.0kg/10ａ、５葉期まで 1.5kg/10ａ
湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも７日間は湛水状態を保つ。葉数の進んだノビエを処理する場合はトドメ MF 乳剤またはクリンチャーＥＷを使用して下さい。

○広葉雑草対策
・バサグラン粒剤：3～4kg/10a（晴天が２日以上続くときを選び、必ず落水状態で散布し３日間は入水しない）　　※上記の剤は特別栽培米には使用できません。

技、其の四　有効茎数を確保したら作溝･中干し(6月20日頃)を！！

今年は生育量が全体的に平年より少なめで推移しています。目標茎数の８～９割（「はえぬき」で坪当り株数７０株の場合、１株当り１９～２１本程度）を早期に確保し、６月 20 日を目途に中干しに入りましょう。

技、其の五　こまめな圃場観察で病害虫防除！

１．葉いもち
オリゼメート粒剤の散布を予定している場合は、遅くとも６月２０日まで散布しましょう。散布が遅れると効果が劣るので注意して下さい。また、**圃場に放置されている補植苗は、葉いもちの発生源になりますので直ちに処分しましょう。**

２．イネミズゾウムシ
今年は早い時期から発生が確認されております。５０株当り２５頭以上の発生では減収が懸念されます。直播圃場では、初期害虫の対応薬剤を使用していないため、特に被害の拡大が心配されます。食害が目立つ圃場では、直ちにトレボン粒剤(2kg/10a)で対応して下さい。※特別栽培米には使用できません。

３．斑点米カメムシ類
県の病害虫防除所によると、今年の発生は**“やや多い”**と予想されています。
カメムシ類の発生源は、農道・畦畔及び休耕田の雑草です。圃場周辺の雑草地を含めた草刈を行いましょう。圃場内においてはイネ科雑草（ヒエ）、ホタルイ等の除去と、防除を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図りましょう。

【 水稲直播栽培の管理について 】

直播は栽培方式により管理が異なります。下記に留意し、早めの茎数確保に努めましょう。また、**病害虫の発生状況もこまめに観察しましょう。**（技、其の五参照）

◎乾田直播（Ｖ溝等）

・本年の播種作業は概ね４月中に終了し、出芽・苗立ち状況は良好のようです。
・稲の葉数が２葉に達したら入水し、湛水状態が安定したことを確認してから直播に登録のある一発除草剤を散布しましょう。

◎湛水直播（鉄コーティング等）

苗立ち数は播種日や圃場条件によってバラツキがあるようです。苗立ち数を確認し以下の対応を実施しましょう。

苗立ち数は 80～120 本/㎡が目安となります。**80 本/㎡以下の場合は 3～4 葉期に窒素成分で 1kg/10a の追肥**を行い、浅水管理で茎数の増加を図りましょう。また、**5 葉期に 270 本/㎡に達していない場合は再度追肥**を行ないましょう。

・直播栽培でノビエの取りこぼしがある場合は、以下の除草剤で対応しましょう。
トドメ MF１キロ粒剤：ノビエ４葉期まで 1.0kg/10ａ（稲 3.5 葉期～）
トドメ MF 乳剤　　：ノビエ６葉期まで 200mℓ（散布液量 25～100ℓ）/10ａ

【 大豆栽培情報 】

播種適期は６月１０日までです。播種が遅れる圃場は播種量を３割程度増量し、生育量確保に努めましょう。病害虫防除所によると、今年はネキリムシ類の発生量は、“やや多い”と予想されています。クルーザーFS30、クルーザーMAXX を使用していない圃場や**例年多発するところでは圃場の見回りを徹底し、**被害が見られる場合は「ネキリエースＫ」で防除しましょう。（■使用量:3 kg/10a　■使用時期:大豆本葉 2 葉期まで）

気象変動に負けない！庄内みどりのつや姫・雪若丸

つ や 姫・雪 若 丸 情 報 コ ー ナ ー

○ 6月の管理が最重要！　水管理の徹底でしっかり茎数確保！

3～4cm 程度の浅水管理で分げつの発生を促進しましょう。ワキが見られる場合は程度に合わせて水交換や夜間落水・田干しを行い根の傷みを最小限に抑えましょう。

☆目指す目標茎数は「つや姫」440本/㎡、70株植えで1株20～21本です。
「雪若丸」580本/㎡、70株植えで1株27～28本です。

☆6月12日（水）10:00～、「つや姫」「雪若丸」現地検討会を開催します。参加希望者は各営農課へお問い合わせください。皆で生育を確認しましょう！

「収量・食味アップ対策」

天候不順（高温・低温・日照不足・強風）に負けない、収量アップ対策として、ケイ酸資材等を積極的に投入しましょう。

○ＫＳＫ２８（流し込み液体ケイ酸資材）　1.4kg/10a 出穂 30～35 日前
○けい酸加里プレミア３４（粒状ケイ酸肥料）　20kg/10a 出穂 35 日前
○ファイトアップ（投げ込み植物活性剤）　500g/10a 出穂 30～45 日前

園芸情報

★長ネギ：定植後の管理とポイント★

①排水対策の再確認をしましょう。

これから梅雨に入ると、長雨や集中豪雨などで雨水が圃場に浸水・停滞する恐れがあります。水が停滞すると、ねぎの生育が弱り軟腐病や他の病気にもかかりやすくなります。早めに明きょ等の排水対策の確認をしましょう。

②病害虫対策

6 月以降、様々な病害虫の発生が確認されるようになります。対応が遅れると被害の拡大につながりますので、注意しましょう。

【主な病害虫の症状と対策】

⑴ネギハモグリバエ・・・白い点々（産卵痕）や白い筋状の食害。
発生前の殺虫剤（粒剤）の処理や発生初期の薬剤散布を実施しましょう。
⑵ネギアザミウマ・・・かすり状でモザイクのような食害。
多発圃場では複数回、防除を行いましょう。
⑶葉枯病・・・葉先が枯れて、葉っぱの中心部分に黒いカビが発生。
殺菌剤での予防防除や発生初期の薬剤散布を実施しましょう。
※葉枯病に似た症状で、管理方法や天候による影響で葉先が枯れることもありますので、よく観察を行いましょう。

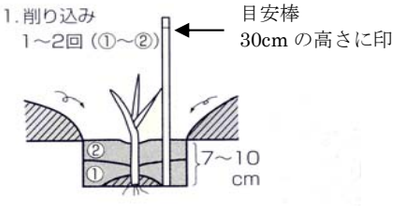
③除草作業

定植から１カ月が経つと、定植時に散布した除草剤の効果が切れて徐々に雑草が見えてきます。大きくなってしまうと時間や労力がかかり、ねぎの生育にも影響が出ますので、小さいうちに除草を行いましょう。

【ポイント】
⑴畝間に生えた雑草は削り込みの作業もかねて行う事で、作業の手間が省けます。
⑵株間の雑草はそのままにしておくと、ねぎの生育阻害や病害虫の温床になるなど、ねぎへの影響が大きくなりますので気を付けましょう。

④削り込み

時期：葉鞘の太さが７㎜程度になった頃
（おおよそ定植１ヶ月後）と、
さらにその15～20日後に2回目を行います。
中耕・除草を兼ねて、
１回あたり約3～5cm程度の土を寄せます。



【注意！】毎年ドリフト被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通（出荷・販売）が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤（茎葉処理液剤）を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

特別栽培米圃場の農道・畦畔では、除草剤（茎葉処理液剤）の使用はできません！

★次号の発行は６月20日です！